

秋田駒ヶ岳を歩く

高校地学部同期生登山・東北花の山めぐり

○乳頭温泉郷——ブナ林の中の温泉郷

花の山めぐり2日目の宿は「休暇村乳頭温泉郷」だった。秋田街道と呼ばれる国道46号線から分かれて田沢湖高原に向かう。秋田駒ヶ岳を右手に見ながら山の中を北上し、田沢湖高原温泉郷を抜けて更に北へ。深々とした森林の中を「まだか、まだか」と思いながら車を走らせ、「道を間違えたか」と思うころ、やっと宿に着いた。乳頭山の懐深く入り込んだ森の中の温泉だった。



ニッコウキスゲ

翌朝、朝食までの2時間余森の中を歩いた。ブナ主体の森は歩いて歩いても尽きることが無かった。遊歩道が在り、湿原、沼などを巡り、幾度か溪流を渡っているうちに道から逸れてしまった。けもの道と思われる踏み跡を辿って登っていった

が、一時間を過ぎていることに気づき、方向を転じて黒湯（乳頭温泉郷中の一つ）に出ようと歩き出した。

笹を掻き分け、沢を飛び越えながら歩いたが宿にも、道にも出逢わない。これは自分の勘が狂っているのだ、下るしかない。やや慌て気味に、小走りでも下りに下って、やっと車道に出た。黒湯の近くだった。汗が全身から噴き出した。

○3日目、予定を変更して秋田駒に登る

前夜天気予報は4日目の雨を報じた。田崎君の提案で3日目に秋田駒登山を行うことにした。結果からみてもこれはいい判断だった。

八合目でバスを降りたらハクサンチドリが出迎えてくれた。身支度を整え、ゆっくりと登り始める。次々と花が現れる。多くが森吉山とダブるが、他の草や灌木類と競い合うように花茎を伸ばしているのが多く、やや趣が異なるように感じられる。エゾツツジが鮮やか。オノエランも多い。イソツツジ、よく似たマルバシモツケ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマキンバイ、シラネアオイ、ベニバ



ナイチゴ、ニッコウキスゲなどなど百花繚乱。花を愛で、カメラに収め、目に焼き付けてと歩みはのろのろ。

右下に田沢湖が見える。何年か前に来た時にはもっと鮮やかなブルーに光っていたのだが、天候のせいかな今日は鈍（にび）色に見える。

まもなく道はゆるやかになって木道の上をあるくようになり、行く手に阿弥陀池が見え始める。ヒナザクラやムシトリスミレが登場。ウサギギクも咲いている。



避難小屋で休憩。東側の眼下に大きな雪渓が横たわり、その縁にチングルマの大きな群落が見える。混じっているピンクはショウジョウバカマ
←ベニバナイチゴ マだろう。

一服後、男女（おなめ）岳に登る。標高 1637m。女性たちも元気だ。小屋に戻って、横岳に登り、大焼砂（おおやけすな）に下って、コマクサ大群落に感動。焼森（やけもり）を経て八合目バス停に下ったが、イワブクロ、キバナノコマノツメ、サンカヨウなどが花を見せてくれた。



○秘湯「鶴の湯」と蛍見物

秋田駒ヶ岳で花と山を堪能した一行は、車を再び北に向けて走らせ、鶴の湯に夕方早くに着いた。鶴の湯は泉質の違う4つの源泉をもち、今でも昔の風情を色濃く残している。リピーターの多い温泉だそうだ。

案内してくれた女性が「夜、蛍見物のバスがでます」と教えてくれた。
←オノエラン 私らの子ども時代には蛍など珍しくなかったので、全員不参加だろうと思っていたら、全員行くとのこと。一人残っても仕方ないので、一緒にバスに乗った。バスは2台、ほぼ満席。

こんなに水温が低く、温泉の排水が流れ込む処に蛍が棲むのか疑問だ
←ウサギギク ったが、バスはかなりの時間走ってはるか下流の旅館の前で停まった。鶴の湯系列下の宿だと言う。蛍は無数に居た。川の中にも、足元の草叢にも、私たちの周囲の空間にも、そ



下ヒナザクラ
して立ち並ぶ木木の枝にも葉にも、オレンジの光を点滅させながら、飛び、停止し、合体していた。旅館の灯りが届きにくい橋の上に立つと、私達をとりまくすべての方角の遠近で光
←ムシトリスミレ が点滅し、乱舞していた。思いがけない不思議な光景に心が動かされた。

